

教育的価値	具体の項目	教育課程
1【生きる】	①【かけがえのない生命】 ③【価値ある自分】 ⑥【心の健康】	学級活動
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人とのつながり】 ⑬【地域づくり】	・
3【そなえる】	⑯【自然発生のメカニズム】 ⑰【自然災害の歴史】 ⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】	総合的な学習の時間

学校経営の基本理念

郷土山田町、岩手を愛し、その復興・発展を支える人材の育成を目指し、「知・徳・体」を兼ね備えた「豊かな人間性」を形成するための学校経営の推進

復興教育に関わる学校経営の重点

重点1【生きる】①③⑥	重点2【かかわる】⑨⑬	重点3【そなえる】⑯⑰⑳
「心の健康の保持」 ・心のサポート体制整備 ・心の授業実施	「人の絆の大切さ・地域づくり」 ・地域交流・ボランティア活動 ・地域学習	「防災教育の充実」 ・防災教育年間計画の策定と実践 ・「避難マップ」「我が家の防災マップ」の作成

昨年度は、復興教育として「地域交流・ボランティア活動」を展開し、地域との絆づくりや地域への感謝の気持ちの育成を目指した。今年度は、昨年度の実践を継承しながらも、被災地に生きる児童の実態と地域の特性から、「被災児童への心のケア」と「震災体験を踏まえた防災教育の充実」を喫緊の課題ととらえ、上記に示したように「いわての復興教育」における3つの教育的価値を学校経営の重点として位置づけ、被災地域にある学校の役割を果たすこととした。以下にその具体を示す。

重点1「いきる」

【題材】「心の健康の保持」

【対象】全学年児童（66名）

【実践の概要】

- ・「心と体の健康観察」と担任による「教育相談」を毎学期実施
- ・「校内心のサポート委員会」の月例開催による児童への支援の検討
- ・学校支援カウンセラーや関係機関との連携体制の整備
- ・「心の授業」の実施（ストレスへの理解、抗ストレスに関する知識や技能、自分自身の心の健康を保持しようとする態度の育成）

【授業の展開】1年「心の授業」：11月実施

- 1 活動の目的と見通しをもつ。
- 2 ストレスを抱えた主人公が登場する物語（紙芝居『ある君のぼうし』）を聞く。
- 3 セルフ・リラクゼーションを行う。
- 4 体験した出来事を表現し共有化を図る。
- 5 ストレスの対処法を学び、体験する。
- 6 まとめを行い、振り返りを行う。
- 7 クイック・リラクゼーション（呼吸法）を行う。



◆児童の感想◆
 ・つらいことをすなおにいえてよかった。
 ・「まほうのこぎゅう」をおぼえてうれいす。
 ・悲しいことがあったら、またやりたいです。
 （授業は、学級担任と養護教諭のTT指導で行った。守られた雰囲気の中で、児童はつらい体験を言葉にした。自身の体験と向き合い、友達や先生に不安を受け止めてもらったことで、児童は安堵し、柔らかな表情へと変わっていった。）

重点2「かかわる」

【題材】「人の絆の大切さ・地域作り」

【対象】全学年児童（66名）

【実践の概要】

- ・「まごころ銀行スペシャル」と称した地域交流・ボランティア活動の展開による地域への感謝の気持ちの育成
- ・地域に学び、地域の人とかかわる学習の展開による、復興発展に自らかかわっていかうとする意欲・態度の育成

【実践の詳細】「まごころ銀行スペシャル」の活動の展開（6月～2月）

- 1 近隣の仮設住宅を訪問し、花植え活動（6月）
- 2 近隣の仮設住宅を訪問し、交流活動（10月）
- 3 地域の方を招き感謝の気持ちを伝える感謝の会（2月）



◆児童の感想◆
 ・僕も笑顔でいたら、仮設の人も笑顔になっ
 てうれしかった。
 ・仮設の人に「ありがとう」と言われた時、逆に元気をもらったように感じた。

重点3「そなえる」

【題材】防災教育の充実

【対象】全学年児童（66名）
 保護者 教職員

【実践の概要】

- ・特設「山北小防災タイム」等を活用した防災教育年間計画を策定と実践
- ・防災教育に係る職員研修、教材開発
- ・家庭・地域・関係機関と連携し、「山田北小地震津波避難マップ」「我が家の防災マップ」を活用した授業の実践

【実践の詳細】「山北小防災タイム」の学習内容

- ・地震津波時の避難訓練（授業時、休み時間時、冬季時等）（3回）
- ・登下校時の避難場所、避難所を現地で確認し、避難方法をシュミレーションする学習（1回）
- ・家庭と連携を図り、自宅やその周辺での避難や連絡方法の確認（「我が家の防災マップ」）（2回）
- ・地震津波のメカニズムや避難に関わる知識、技能を学ぶ学習（1回）

【授業の展開】5・6年 防災学習（「山田北小防災タイム」）：11月実施 2時間扱い

- 1 課題「安全に避難できる力を身につけよう」を把握する。
- 2 地震の起こり方、海面の変化と津波の関係を知る。
- 3 三陸沿岸における津波の特徴を知る。
- 4 防潮堤の役割と過信の危険性、避難の必要性を考える。
- 5 様々な事態を想定し、具体的な避難行動を話し合う。
- 6 普段からの備えの重要性に気づく。
- 7 「津波てんでんこ」、「津波記念碑」から先人の思いを受け取る。
- 8 リラクゼーションを行う。
- 9 今日の学習を振り返る。



◆児童の感想◆

- ・津波の仕組みや力を知って驚いた。防潮堤に頼ってはいけなかった。
- ・石碑に刻まれた教えを伝えなければならないと思った。
- ・子どもだけしかいない時でも、自分で考えて行動することが大事だとわかった。

震災後3年経過しようとしている今、児童は少しずつ震災と向き合い、人と地域とつながりながら、未来への思いを強めていると感じる。そんな児童一人一人の心に寄り添い、地域の復興・発展・未来の担い手として力強くたくましく生きぬく力を身につけさせるため、震災体験を踏まえた復興教育の歩みを、今後も一步一步、確実に進めていきたい。